
6 6 6 通目のメール

嵐風嵐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

666通目のメール

【Nコード】

N3331G

【作者名】

嵐風嵐

【あらすじ】

最近、「666」という数字がやけに目に付く。どうやらオレの運は不吉な方向に向かっていているらしい。そんな中、オレに666通目のメールが届く。

（前書き）

どうも。初めて短編というものを書いてみました。ために、という感じですので、感想・評価などをよろしく願います。

「666番目のメール」

666。

確か、ヨハネの黙示録がなんとかで、そんな数字があったように思う。オレの乏しい知識を頼りにすれば、幸運のしるしではないはずだ。だが、そんな事、オレにはどうでもよかった。はずだったのだが。

一昨日、オレはこう質問された。

「この前のテスト、合計点何点だった？」

クラスメイトからの質問に、オレは何の気なしに答える。

「ええとだな……ちよつと待てよ。……666点」

その時点では何も考えていなかった。質問してきた奴も、別になんとも思わず、自分の点数と出来を話し始めた。

その翌日も、666に關係することがあった。

「あれ、今日何日だった？」

部活が終わり、家へ向かって友達と肩を並べて歩いていると、ふとあるテレビ番組の事を思い出し、そいつに日付を聞いた。

「今日？ 6月6日でしょ？」

「あつ。じゃ今日じゃねえか、JBSの特番」

「6時から？ 僕も見ようと思ってたんだ、それ」

6月6日6時から。その時も、何も考えずにただ過ごしていた。だが、さすがに今日もその数字を目にすると不思議に思った。

最近出たゲーム、「燃やせ狩魂！！ the 3rd」のプレイ時間が66時間6分だったんだ。オレはどこかで聞いたような数だなと思ひ、辺りを見回すと、壁にかけてあったカレンダーに目が行った。昨日は6月6日だ。その時、昨日の会話が脳裏に煌めいた。

それと同時に、一昨日の会話も蘇る。テストの合計点、666点。昨日は、6月6日6時……。そして今日は66時間6分のプレイ時間……。全て、「666」だ。

オレは首をひねった。これは単なる偶然なのか？ 偶然にしては出来すぎじゃないか。何かに取り付かれているのか？ 少し心配になったオレは百科事典を取り出し、「ヨハネの黙示録」について調べ始めた。

……あつた。ふむ、ふむふむ。なるほど。「666」ってのは獣の数なのか。不吉……らしいなどうも。何だコレは？ オレの運が尽きたって証明かい？ しかも皮肉なことに、それが載っているページ、666ページだ。コレは本当にヤバイかもしれない。何か恐くなってきたぞ。

その時、何かが小刻みに震える音が耳に入ってきた。オレは驚いて音のした方を見た。正体は分かっていたが、今みたいな時にこんな音がすると、驚くぜ？

オレはおもむろに携帯を開いた。一通のメールが受信されていた。その内容はこうだ。

『悪い、英語の宿題何ページだったけ？』

ふうむ、どこだったかな。オレは宿題のページを確かめ、携帯に打ち込む。そして、送信。即効で返信が来る。

『サンキュー　ちなみに受信メール1000通目！』

おつ、ちよつと嬉しいじゃないか。さて、オレは今どれくらいなんだろうか。

……663通、だと？ 後三通で666通じゃないか！ コレはやばいぞ。いつもだったなら何も気にしないが、今となつては大騒ぎだ。後三通で何が来る？ 何が起こる？ 待て、誰だ？ 三通目は誰だ？ そいつはもしかしたらオレにとって不吉を呼ぶ者なんじゃないか？

言いようのない不安に襲われた。オレは恐くなって携帯をベッド

に放り投げた。

くそつ、とにかく、今日は寝よう。

次の日。オレは学校の机でうなだれていた。

「何でそうなるんだよ……」

唐突だが、オレには好きな女子がいる。時々メールするが、それほど親しくもない。まあ、同じクラスなわけだが……。で、どういう風の吹き回しか知らないが、もしかしたら「666」の連発で不吉になってたからか、オレはそいつに告白する事になった。全く、罰ゲームだぜ？ 断ることは出来ない。事もあるつか、オレが提案したんだからな。ちくしょう。純粹無垢な高校生が、何を中学生みたいなことやってんだか。しかも、今のオレの運氣は全くの0と言っている。余計な運を「666」に使ってしまった。どうすんのよ、オレ！

そして遂に運命の時がやってきた……。放課後の校舎、教室の前。人影は少ない。

目の前に、アイツがいる。うう……無理だ。絶対無理だよ！ 心拍数が異常なほどまでに上がる。だが、ここで変な姿を見せれば、振られる確率が増加するに決まってる！

「えと……何？」

口を開きやがった！ こう聞かれたら黙ってるわけには行かない！ もはや後戻りは出来ないんだ……とほほ。

「あのさ……前から思ってたんだけど」

そろそろ察したようで、彼女は緊張した表情だ。オレはゆっくりと、次に続く言葉を口から発した。

「お前と、付き合いたい……」

うわあああつ！ オレの口からまさかこんな言葉が出ようとはっ。穴があつたら入りたい。いや、穴じゃなくても、なんでもいい。この場から離れたい！

「ゴメン、ちょっと考えさせて……」

そう言って向こうの方から走り去っていった。彼女が見えなくなると、オレはその場に力尽きたように倒れこんだ。

「はぁ……はぁ……はぁ……」

今日返事が来るにしても、明日から会いづらいじゃないか。うう……。まだ振られたわけじゃないのに、何だこの悲しさは。こんな事なら罰ゲームなんて言うんじゃないかった……。

それからオレはずっと落ち着かず、ご飯のときも食欲がなく、母さんに心配された。ご飯から部屋に戻ると、一通のメールが着ている。664通目のメールだ。666通まで、後二通。送信主は、今日オレと一緒に遊んでいた(例の罰ゲーム付きの)奴だ。

『どうよ？ 返事は？』

今返信を送れば、必ず数通は続くはずだ。つまり、666番目のメールはコイツという事になる。大丈夫だよな？ さすがにアイツからの返事が666番目にはなってほしくない。

『まだ。来る気がしない。ってか明日からどうすんのよ、オレ(泣)』

『

送信ボタンをプッシュ。オレははぁーっと長い息を吐き出した。

さつきから緊張しっぱなしだな。すぐ返事が返ってきた。コレは665通目だよな……。

『どんまい(笑) さすがに今日中には来るだろ』

今日中？ オレは時計を見た。今は夜の十時を過ぎた頃だ。アイツ……大体、いつも十一時くらいに寝るつつってたような……。

嫌な予感がした。まさか。

携帯が鳴った。666通目のメールだ。唾を飲み込む。そっと、携帯を開く。深呼吸。……誰だ！？

息が出来ない。声が出ない。心臓が信じられないくらい早い。

「じょう……だん、だろ？」

小さく声が漏れた。思考が停止している。オレは微動だにせず携帯の画面を見つめた。666通目のメール。送信主はアイツだった。嫌な予感が的中した。それを見た瞬間涙が出そうになったが、その文面を見た瞬間、時間が止まった。

『あたしも付き合いたい。ずっと考えてたケド、やっぱりあんたが好き』

ゆっくりと時が動き出す。笑いがこぼれる。

何が666だ？ 何が不吉だつて？ 何が獣だ？ ふざけんな神様！ 単なる偶然だったんじゃないか！

「ハハハハハッ」

オレは狂ったように笑い出した。馬鹿みたいだ。666なだけであんなに不安になって。みんな、666は不吉な数字なんかじゃないぜ。幸運の印だ！ あはははははっ。

それから、オレは彼女と付き合い始めた。二人が暇な休日にはゲーセンとか行つたし、この前は映画も見に行つて、傍から見れば上手く言っているように見えると思うが、実は付き合い始めて確信した事がある。

アイツのわがままさは尋常じゃなかった。オレは大抵、彼女に振り回されているんだ。

そう、まさに彼女は獣のようだった。

（後書き）

最後まで読んでくれた方、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3331g/>

666通目のメール

2010年11月28日18時25分発行